

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;ligvosvoCd=2191500046-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2017_022_kami-trus&amp;ligvosvoCd=2191500046-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年2月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方々と連携を取りながら「その人らしい暮らしをその人が主役で作れるケア」を理念に、職員の業務上の役割を出来る限り決めず、その日のその人の要望に可能な限り柔軟に対応できるように取り組んでいます。地域密着サービスということもあり、地域との交流も行事、その他歌声サロンなど参加できるように取り組んでいます。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者サービスの質の向上を目指し、職員の育成に力を注いでいる。そして、常に「考えるケア」が実践できるように、介護知識を習得し、創造性を発揮できるように取り組んでいる。地域との交流も積極的にに関わり、市の委託を受け、集中型一般介護事業に参画したり、坂下地区の小・中・高生との交流も続けている。また、ドライブを兼ねた外出の機会を多く設けたり、音楽療法を取り入れるなど、生きがいのある生活を支援している。管理者は、職員の専門性を高めながら、利用者の「健康で幸せな暮らし」に貢献するため、熱意を持って取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議などで話し合い、理念の共有につながるようにしている。勤務の都合上、会議に参加できない場合には話し合った内容を共有しあえるように記録を記入し、個人へ渡している。	理念の意義を職員会議の場で共有し、実践状況も検証している。職員は、利用者の成長する力を信じ、住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしが実感できるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が野菜を持って来てくださったり、地域の行事、ホームの行事への参加、買い物、散歩など、交流を図れるようにしている。	地域とは、自治会員として、応分の役割を担いながら、交流している。地区の集中型一般介護予防事業に主体的に関わっている。地元の子ども会やボランティアとも交流し、近所づきあいも親密である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や避難訓練への参加をして頂き、どういった支援をしているのかを見て頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での相談事など、運営推進会議で伺えるようにしている。介護現場の現状や職員募集などをお願いしたりしている。現在はサロンの話や坂下病院の事などの情報交換をしている。	会議では、事業所の実情を報告し、地域福祉や医療についての課題で意見を交換している。また、介護人材の確保と育成、感染予防、防災対策など、多様な議題で話し合い、運営やサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度のグループホーム部会、また介護予防事業などを行うことにより、市長村担当者と協力できるようにしている。何か相談などあれば、その都度連絡するようになっている。	行政とは、グループホーム部会で、意見を交換している。担当者とは、運営推進会議の際に、事業所の実情を伝え、運営上の課題や困難事例は、その都度連絡を取り、助言を得るなど、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止事項については、職員会議などで話し合っており、理解し、十分に注意して実践に繋げている。言葉の拘束などに関しては、再度確認する必要がある。	身体拘束の禁止事項を全職員に周知し、拘束をしないケアの実践をしている。言葉による拘束も同様である。また、出来る限り、不穏な状態が生じないよう生活環境に配慮をしている。玄関の鍵は掛けず、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に話し合いの場を持ち、見過ごされる事が無いよう心掛けている。そのためにも、アザなども見つけた場合には、報告するようにし、なぜ起きたかも考えるようにしている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は一度、権利擁護の研修を行っている。すべての職員が出られたわけではないため、今後も機会があれば参加出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、話をするようにしている。改定時には、案内を出すなどして周知できるようにし、ご理解頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、ご利用者からの要望があった際には、申し送り等で話し、個人ケース記録にも記入するようにしている。可能な限り、要望には応えられるようにしている。	利用者の意見や要望等の情報は、介護相談員からも得ている。家族からは、面会時や電話で聴いている。家族アンケートでは、「ほぼ満足」を占めているが、身体機能の低下が心配な意見には、丁寧に説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて話を聞く機会を設け、日々の申し送りの際にも話があれば聞くようにしている。	定例の職員会議で、意見を交わしている。また、個人面談の機会も設けている。個別ケアや統一した支援方法、気づきなど、「考えるケア」の啓発と、働きやすい勤務体系なども話し合い、運営に活かしている。	昨年目標を継続し、「考えるケア」に向けて、具現できる環境づくりに取り組み、職員のポテンシャルを引き出しながら、介護人材育成に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良時の対応、希望休の取得、研修への参加など、出来る限り働きやすい職場に出来るよう環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の機会を設けると共に、日々の業務の中で分からない事、相談事など聞くようにし、みんなで考えるケアを目指して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会や他業種との研修会、その他の交流会、研修会などの活動へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始時には、ご本人の不安な思いをどうみ取っていくのかに時間をかけ、ご本人の安心につながる支援を出来るようにしている。ご本人との関係づくりには時間をかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前、ご家族の話を十分に伺いながら、時間をかけ信頼を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの時間をもち、ご本人、ご家族が必要としている支援が出来るように努めている。その人を決めつけではなく、出来ることを探すことに心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族としての生活を心掛け、出来ることは一緒に行ったり、お互いに支え合えるような生活が出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的にご家族に受診へ行って頂くようにしている。ご家族の協力なしで支える事は難しい事を説明し、面会や行事への参加もして頂くよう話をし、ご本人さんを一緒に支えてもらうことを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が慣れ親しんだ場所などに出掛けられるようにしている。面会などは、友人など来られる方もいます。出来る限り、途切れてしまわないようにしている。	知人や友人が面会に訪れている。馴染みの店や美容院へ出かけたり、思い出のある名所地へは、ドライブを兼ねて外出をしている。かかりつけ医受診の帰りに、家族と共に馴染みの場所へ立ち寄る人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関りを持ちながら生活出来るよう、職員が橋渡しを行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には、こちらへのいつでも相談してくださいと話しているが、実際に相談を受けたケースはほとんどない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに耳を傾け、希望などを把握できるよう努めている。困難な方に対しては、以前の生活歴を参考にしながら、その方に合った支援を行っています。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握している。困難な人は、目線を合わせて語りかけ、表情を汲み取り、家族からも情報を得ながら、思いに沿った暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の話の中での聞き取りやサービス利用前に、ご本人・ご家族に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りなどを通じて、ご本人のできることの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議での話し合い、ご家族には、ご面会時等に聞き取り、説明などを行い、ご本人にあった介護計画書を作成できるよう努めている。	介護計画は、面会時に家族の意向を聴き、職員の意見やアイデアを反映させて作成している。利用者の体調を維持し、生きがいを持って、穏やかに暮らせる計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人ケース記録には気づきなどを記入しながら、職員同士で情報を共有できるようにしている。介護計画書にも反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務の担当制を極力省き、その日、その人の動きに柔軟に合わせられるように取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴等の中から把握するよう努め、ご本人の安心へ繋がるよう、楽しく生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、今までかかっていた主治医への受診をご家族にお願いしている。主治医へは不定期ではあるがバイタル表などを提出し様子を伝え、適切な医療を受けられるよう配慮している。	かかりつけ医は個々に継続し、受診は家族が担っている。主治医には、本人のバイタル表を提供し、家族とホームとで受診結果を共有している。訪問看護とも連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来る際に、個々の状態報告を行うとともに、アドバイス等も頂き、必要であれば受診などに繋げるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病棟看護師、退院調整担当者への連絡を行い、個々の情報の共有を図るようにしている。入院中も訪問し、様子を伺うようにしている。必要であれば情報提供表も渡すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、ご家族の意向を伺い、ホームで出来る事、出来ないことを話している。終末期などについては、必要に応じてご家族との話し合う場を作るようにしています。	重度化については、ホームでの生活が可能までとし、常時、医療行為が必要になった場合は、病院への移転ができるよう支援し、終末期対応は、訪問医の確保が困難なため「介護度3」の時点で、特別養護老人ホームへの入所申請を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員による応急手当の研修を今年度は行っていない。今後継続して行う必要がある。急変時については、職員会議などで確認は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、すべての職員が経験しているわけではないため、今後も継続して行っていく必要がある。地域の方には訓練に参加して頂き、協力体制を築けるようにしています。	災害訓練には、地域の人も参加し、避難や通報、初期消火などを行い、夜間想定を含めて実施している。連絡網には、運営推進会議のメンバーが入っている。屋外に赤色灯と通報ブザーを設置し、災害時におけるの備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として接するように日々話をしてる。排泄・入浴など、特に尊厳にかかわることに関しては、人前で言わないなど、十分に配慮をするよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重することを基本とし、支援に取り組んでいる。特に、個人に関わることは、人前で話題にしないように配慮をしている。言葉をかけるときは、笑顔で穏やかに語りかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人の希望などあれば、それを叶えられるよう支援している。日常会話の中で思いを聞き出せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り業務上の決まりを少なくし、その日のその人の動き、希望に合わせた支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に出来る限り行って頂いている。出来ない方も、過去の生活歴など把握しつつ、ご本人に選択してもらえるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べたいものを食べられるようにしている。職員も同じ食事を一緒に食べ、出来る方には一緒に準備、片付けを行って頂いている。	食事は、利用者の好みを聞いて調理し、食べ残しなく、満足が得られるように提供している。準備や片づけは、出来る人が行い、職員も一緒に、同じものを食べ、食事中は静かに、懐かしのメロディーを流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量などに配慮し、水分をあまり好んで飲まれない方には、ご本人が好まれる飲み物を提供することも心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助のいる方には、寝る前に義歯洗浄、もしくは歯磨き、口腔内の清潔に注意している。必要な方には毎回行うようにもしている。自分で出来る方には声を掛け、行って頂くようにしている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンに合わせた誘導、声掛けなどを心がけている。出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう誘導、声掛けの支援している。	個々の排泄パターンに合わせ、さりげなく誘導し、トイレでの排泄が出来る。数名が布パンツ使用であり、全体の自立度は高い。排泄用品は利用者の状態に合ったものを選択し、夜間は、安全の為、1名がポータブル使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝のおやつにヨーグルトを提供しています。水分補給の時間を作ったり、散歩など出来るよう心掛けています。(ヨーグルトが苦手な方には別なものを提供しています。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせた入浴が出来るようにしている。気が進まない方には、時間を空けての声掛け、日にちの変更をしたりしている。ほぼ毎日入浴される方もいます。	入浴は、いつでも入れる備えがあり、毎日入浴する利用者もある。拒む人は、声かけのタイミングや気分転換を促すなど、工夫をしている。重度の人は、隣接の小規模多機能型の特殊浴を利用し、安楽な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の、その日の状態によって休む時間を作っています。その人の習慣に近づけられるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用までは理解していないが、薬の種類などは把握できるようにしている。症状や状態についても変化があれば観察をし、必要があればご家族に連絡しています。必要であれば受診もします。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人に合った一日一日を過ごせるようにしている。毎日の役割や散歩、買い物、ドライブなど行けるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の希望に沿って支援している。毎日の買い物、喫茶、ドライブ、散歩などを取り入れている。ご家族には、負担のない所で、外出、外食、外泊などを協力して頂いている。	散歩は、日常生活の一部として支援している。また、毎週木曜日は「外出の日」と定め、買い物や喫茶、遠方のドライブ等にも出かけている。通院を含め、外食や一時帰宅、盆・正月の外泊には、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいますが、無くなることへの不安が強い方もいるため、基本的にはこちらで立て替えるようにしている。払える方はご自身で払って頂くこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたい時には出来るようにしています。手紙のやり取りまでは支援していません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、分かりやすい場所となるようにしている。季節感を取り入れる様に生花を活けていたが、取ってしまわれる方が多く、現在は生花を置かないようにしている。冬場の湿度調整が難しいです。	共用の間には、ゆったりとしたソファと、座りやすいこたつテーブルを設置している。壁には、記念写真や季節を題材にした習字、塗り絵を飾り、神棚も祀っている。窓越しに見える山々、広いベランダの洗濯物など、家庭的でやすらぎの感じられる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で独りになることは難しいが、ご自分の過ごしたい場所で過ごして頂けけるようにしている。お部屋で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には使い慣れたものや写真など、ご自身が慣れ親しんだものを置くようにし、安心できる場になるようにしている。	居室には、洗面台とクローゼットを備え、収納ケースや椅子、洋服掛け、テレビ等は持ち込みである。他にも、ぬいぐるみや写真、こけし、趣味の作品などを飾り、自分らしく落ち着いて過ごせる部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく生活出来るように工夫はしている。何か不都合があれば、改善するようにしている。		